
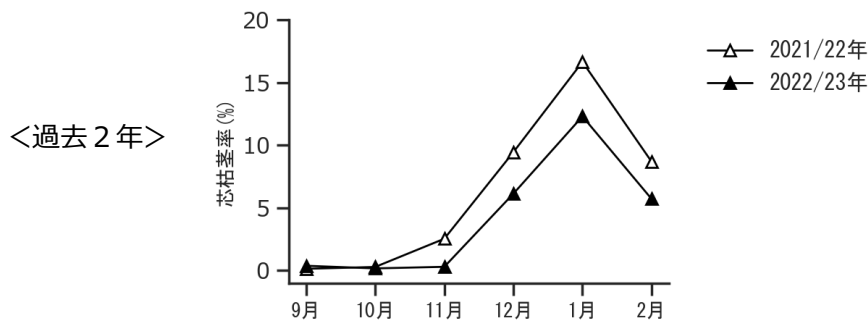
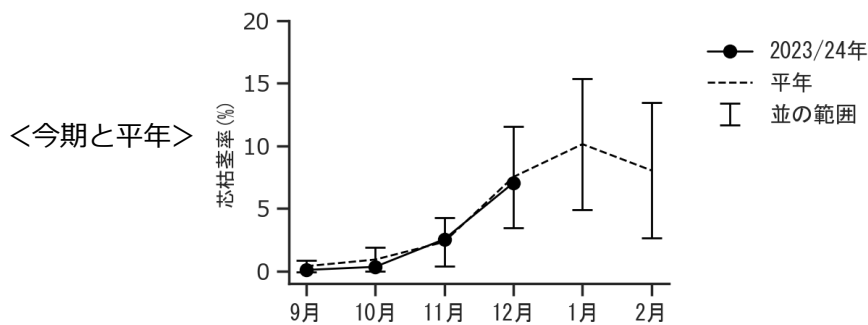


作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯茎率の推移(夏植え)



・発生ほ場率91.7% (平年 : 93.5%)

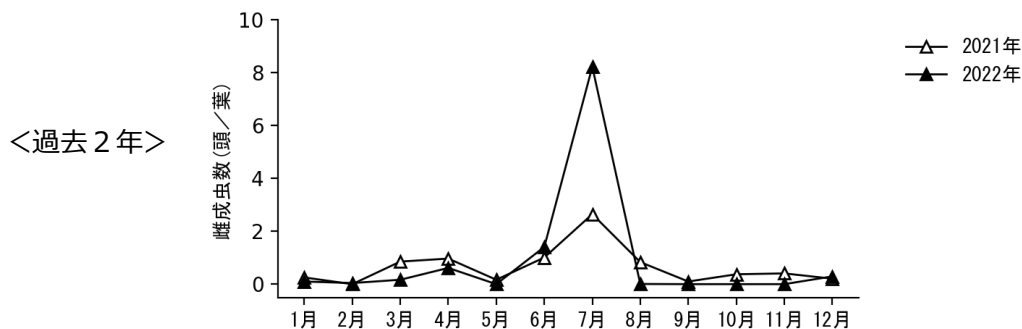
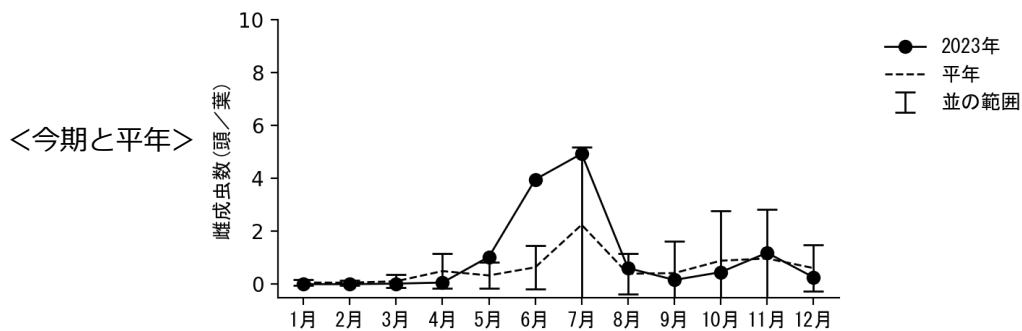
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↓		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：32.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

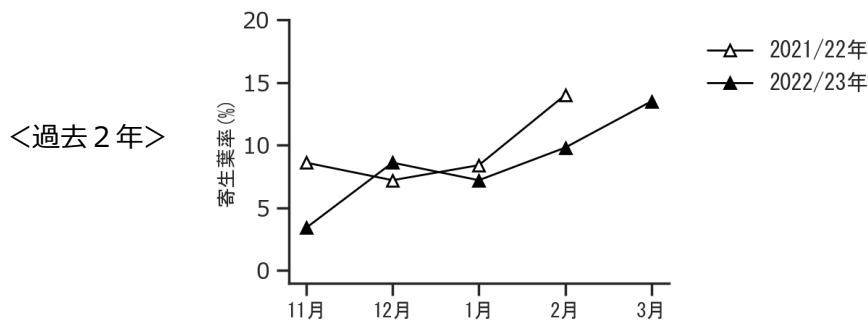
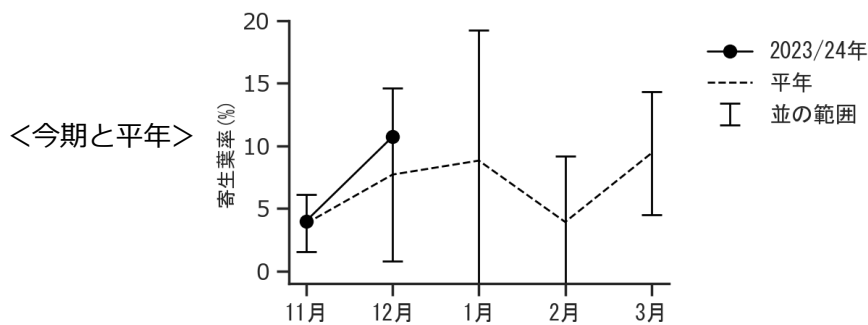


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	八重山群島
病害虫名	① ハモグリバエ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生葉率の推移




・発生ほ場率80.0% (平年 : 65.1%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・発生源となりうるほ場周辺の雑草除去に務める。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

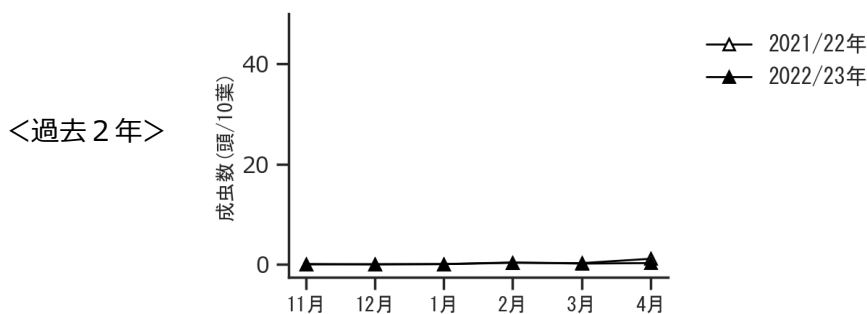
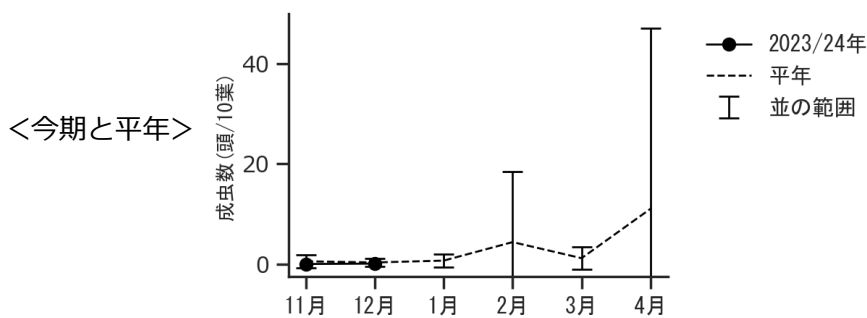
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	① タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：14.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

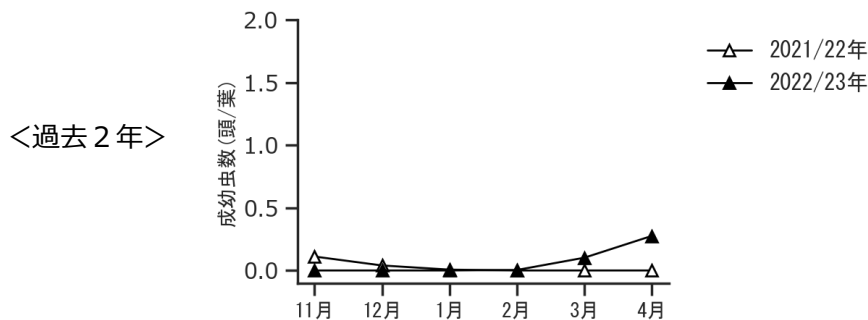
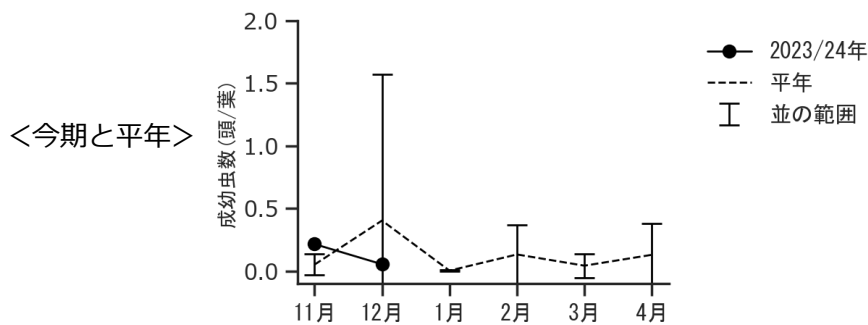


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	② アブラムシ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	↘		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率20.0% (平年：9.3%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。